

こんなときは

新潟日報紙「健康」欄に読者の質問に答える形で連載

Q：母乳止める注射で、声に変に

妊娠 5 ヶ月で胎児死亡のため、分娩直後に母乳を止める注射を打たれ、2 週間後にも 1 本されたら、尿が止まって顔がむくみ、声がしわがれました。尿は治ったものの、声は 4 ヶ月以上たった今も変です。元の声に戻るでしょうか。今後の妊娠で母乳が出るかどうか心配です。

(上越市・主婦・34 歳)

A：ホルモン投与の一時的症状か

妊娠後期の流・早産、死産、新生児死亡、または母親が病気で薬を飲んでいるなどのため、母乳の分泌を抑えなければならぬことがあります。

妊娠中期の死産でも、数日後に乳房が強く張って、かなりの苦痛を伴うことがあるので、あなたの場合も、そのために母乳を押さえる処置がとられたのだと思われます。

母乳の分泌を押さえるには、乳房を冷やしたり、圧迫したりなどの方法が試みられますが一般には各種製剤の投与によるホルモン療法が行われています。

最近是非常に有効な薬が開発され、朝夕 1 錠ずつ 2 週間の服用ですみませんが、吐き気などの消化器症状を伴うため、使えないこともあります。

ホルモン剤の投与は、母乳が出始めてからでは効果が少なく、分娩直後に投与されるのが普通です。

これらのホルモン剤には、体重が増えたり、むくみをきたし(体液貯留)たり、男性化をもたらしたりする副作用もありますが、いずれも一時的なものです。

あなたもしわがれ声長く続いているようですが、それは他の疾患でもみられます。今回投与されたホルモン剤のためかどうかは、よく検査してみる必要がありますが、まず心配はないでしょう。

また、次の出産後に母乳がよく出ないなどのこともないと思われます。

基礎体温を記録して、産婦人科専門の医師の診察を受けられるようお勧めします。